武庫川市民学会誌　Vol.3, No.1, pp.7-10 (2015)

〔寄　稿〕

自然観察会 三田市勝谷里山を考える

法西 浩*，吉田博昭*

1. はじめに

筆者らは，武庫川の魚・水・つながりのシリーズとして，今までに何度か，自然豊かな武庫川流域で自然観察会を催してきた。その成果はその都度，武庫川流域で活動するボランティアグループの会誌に寄稿してきた。今までは単なる軽いレポートだったが，今回は少し趣を変えて，少し重い考察と将来展望をも加えることにした。

2. 案内のチラシからみるキーワーズ・キーフレーズなど

圃場整備を免れ，1 軒の農家の努力で残された勝谷里山，ため池・水路。湿地・田んぼの生き物，田植えの終わった棚田や小さな水路をすいすい泳ぐメダカやオタマジャクシ，珍しいカスミサンショウウオ・マツカサガイなど，ため池や湿地の美しいノハナショウブ，湿地の稀少植物群。運が良ければノウサギ・キジが飛び出すかも。さて，この宣伝文句で，多くの参加者が得られるのか。

3. 三田市勝谷里山自然観察会

2014 年 6 月 15 日，午前 10 時過ぎ晴。9 時 30 分，JR 福知山線宝塚駅集合，相野駅下車。参加者 17 名，うち子ども 6 名。

挨拶のあと，この日の生き物観察の要点とともに，

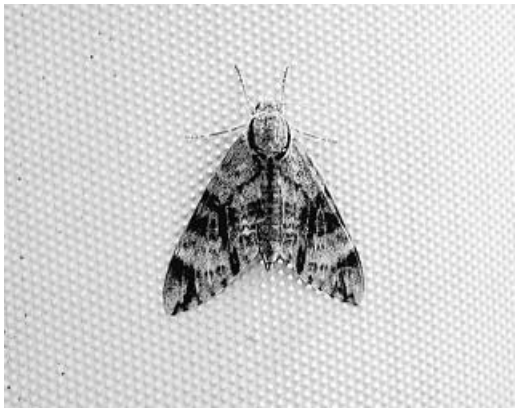

写真 2 シモフリスズメ（珍しいスズメガ科）

マダニが媒介するウイルス感染症「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」[1]にかからないようにするためのマダニの予防法を，標本（2013.9.9）（**写真 1**）を用いて解説した。勝谷里山までは約 15 分，「武器（観察用具）持ったか，さあ出発やで」と号令。いつもの悪いくせ。

途中，電柱に静止していた珍しいシモフリスズメをみつけて，参加者たちパチリ（**写真 2**）。ここは田園地帯。チョウや野鳥の観察でにぎやか。いつもながら，いろいろな分野の専門家がいて，解説してくれるのと，子ども達がはしゃいで虫を追ってくれるので，とても嬉しい。

写真 1 マダニ種 三田市加茂加茂山公園産

写真 3 ノハナショウブ（最盛期）

*武庫川づくりと流域連携を進める会　Hiroshi HOSAI, Hiroaki YOSHIDA

写真 4 カキラン

写真 6 シライトソウ（終期か）

勝谷里山の持ち主，K さんご夫婦に挨拶。棚田の入口で，ヒョウモンエダシャク（シャクガ科，稀少）が大発生，写真を撮る。棚田の入り口には，ノハナショウブ（RD C ランク）の大群が最盛期，みなさん大満足でパチリ（**写真 3**）。棚田入口では，もう腹減ったという子どもがおり，昼食するグループあり。ここから植物，水生植物を観察しながら，1 番上のため池とその下の湿地に向かう。ノハナショウブ数群落あり，ため池下の斜面にカキラン（RD C ランク）[3)]の大群落（**写真 4**）。まだ咲き始めたばかり。湿地にはトキソウ（RD B ランク）（**写真 5**）はパラパラほんの数輪しかみられず，しかも色あせている。シライトソウ（**写真 6**）はほとんど終わりになっていた。湿地で観察する皆様のスナップ（**写真 7**）。

この湿地で，一人の参加者がハッチョウトンボ（RD B クラス）（**写真 8**）が発生しているのをみつけてくれた。皆さんはこのトンボを追って撮影に夢中。真っ赤な胴をしたオス 2～3 個体，胴がやや太く，黒と茶の縞模様のメス 2～3 個，大きさは約 20㎜，世界最小のトンボ，日本に一種，世界（南方系）に数種しかいない。日本では低層（低地）湿地は多く失われ，稀少種は絶滅に近いが，ここ勝谷の湿地では残っている。これからも大切に保護しなければ。この勝谷湿地は日本の自然遺産の一つである。私一人が言うのではなく，今日の参加者は，ここは残したいとの思い。

水生植物では，ミナミメダカ（要注目種）はたくさんみられた。また，ドジョウ（RD B ランク）[3)]もすくってお見せした。丘のため池には，ヌマムツ（川にいるカワムツとは別種，最近別種に分類）がみられた。ここのミナミメダカはもっと北の丹南地方にいるメダカと同じ遺伝子（単独の）B-39 型を持ち希少価値がある。相野川を離れた西側と遺伝子タイプを異にする。田の中にはトノサマガエルとヌマガエルの幼生（オタマジャクシ）がうじゃうじゃ。1 番下のため池にはマツカサガイが棲息。1 個体を捕ってお見せした。マツカサガイは殻の表面にマツカサの紋様があり，珍しい貝である。

午後からは，筆者法西が前日に里山の森で仕掛けておいたトラップ（落とし穴）（直径 7㎝，深さ 9㎝ のカップにオサムシの好む餌を入れ，彼等の夜の活動を待つ）30 個の回収に皆さんをお連れした。今回は兵庫県の稀少種アキオサムシ（RD C ランク）が狙いである。これが捕れたらヒット。武庫川流域のオサムシ調査は今年で 5 年目である。

「トラップを覗いて，オサムシがいたらパチリとやってください」。数個のトラップを覗いて，「いた，い

写真 5 トキソウ（終期，色あせ状態）

写真 7 参加者のスナップ

写真 8 ハッチョウトンボ　オス

たパチリ」(**写真 9**)。トレイ（皿）に捕れたオサムシを並べ解説。彼等は生物界の重要な法則，トレードオフ（二者ともには両立せず）の原理で，飛ぶことをやめ，速く歩くことと夜間活動を選んだ。そのため，山，河川などのハザードにより，著しい地域変異が生まれた。アキオサムシがその例である。

ここであと 1 つ重要な 1 種が残った。カスミサンショウウオ（RDB ランク）の幼生（もう幼体になりそう，つまり肺呼吸が始まる）をまだゲットしていない。帰るまでに見つかるか，気がかりだった。探すことしばらく。一人の方がやっとみつけてくれた。体長（全長）は 40～45㎜。四肢が揃い，外鰓（えら）は消失し，もうすぐ山に戻る。みなさんパチリ（**写真 10**）。この解説で楽しい一日は終る。皆様満足だっただろうか。まとめは自然観察記録（**図 1**）に譲る。

4. 考察と展望

この里山の自然観察会からみえてきたもの，それは皆さんが楽しかった，また来たい，この自然豊かな里をずっと残しておきたい，と口々に言っていたことから，この考察で自然観察会，自然保護を考えてみたい。

筆者らは，今まで稀少種について力説するあまり，残念ながら述べ忘れていたものがあった。それは 1 軒

写真 9 トラップに落ちたアキオサムシ

写真 10 カスミサンショウウオの幼生
（幼体（親）になり始めたのか 4 肢がそろう）

の農家が昔から古来の農業経営をそのまま営々と続けて，圃場整備をしなかったことである。そのことにより，動物では外来種アメリカザリガニ 1 種のみの侵入で済み，植物の外来種は全くみられない。在来種が多く残っていることで，この勝谷里山は自然遺産というべきである。またこの農家の軒に毎年ツバメが帰ってきて，巣をつくり子育てをする。だから，さらにここは文化遺産ともいうべきである。では，この日参加した方々の感想はどうだろうか。

この日参加した 1 人（S さん，仮称）は，こんな豊かな生き物が多いところは初めてだ，とおっしゃった。この方は翌日も訪れ，じつくり楽しまれた。S さんと今も手紙のやりとりが続いている。

後日，人から兵庫県立人と自然の博物館（以下人博）が，この勝谷里山を利用し，ここに人々を連れて観察会をされていることを知った。そこで，S さんは，自然観察会のあり方，里山の活用・保全の方策について話し合いを持ちたいと人博に提案されているが，まだ返事が届いていない。

里山を活用する場合には，勝谷のような場所では持ち主の許可を得ることが大前提である。筆者らの場合は，4 月 5 日に勝谷里山の持ち主 K さんに挨拶に訪れ，許可を得た。

さらにこの会の一週間前には，筆者法西が下見に訪れ挨拶した。S さん，筆者らで里山の活用・保全のあり方を討論することは必要ではあるが，私たちの意見だけで提言書を書くことは偏見をまぬがれない。そこで，提案しておきたい。

筆者らの所属する武庫流会，人博，武庫川流域圏ネットワークとそれに所属する諸団体（会）とで，研究発表会，ワークショップ，シンポジウム，学会などを開催し，討論する場を持ちたい。その場で，各団体（会）の実施している活動，悩みなどを語り合うのはいかがだろうか。そのイニシアティブを武庫川市民学会がとつて頂きたいと願っている。

5. おわりに

2014年6月15日に武庫流会が主催した里山での自然観察会の成果を報告した。この企画を踏まえて，里山の活用・保全の方策をいろいろな団体（会）が語り合う場をつくって欲しいことを提案した。

参考文献

1）毎日新聞記事（2014.5.1）「医療・健康 春から秋マダニに注意，ウイルス感染症 SFTS を媒介」.

2）法西　浩(2013)「フィールドレポート」マダニにかまれないようにご用心を!，武劇川，No.61，5-6，21 世紀の武庫川を考える会.

3）兵庫県県民生活部環境局自然環境保全課（2003）改訂・兵庫の貴重な自然 -兵庫県版レッドデータブック 2003-，382 pp.，(財)ひょうご環境創造協会.

自 然 観 察 会 記 録

1．観察地域	相野　勝谷里山			
里山・田んぼ、ため池	相野駅から　勝谷里			
2．実施　2014/06/15	調査時間帯　10時　～　14時			
3．天候　晴れ	気温　28℃	水温　＊＊℃	朝夕　＊＊＊	
4．指導者：法西	記録　吉田　博昭	参加人数　17名	大11　小中　6名	

5．目的：圃場整備が進み里山風景が失われていく中で、一軒の農家の努力で残された貴重な里山です。周囲に高い山もなく安定した水源に恵まれない谷筋の奥まったところを堤で仕切り水を溜め、営々と守られてきたため池・水路・田んぼが里山の生き物を育んでいることを学ぶ。

6．観察場所の環境

河川	水路	池沼	ため池
河畔	低湿地	畑地	水田
雑木林	植林	マツ林	竹林
草原	放棄地	社寺林	霊園
商業地	住宅地	河畔林	
里山	里海	その他	

7．観察された生物

	植物		14	アオスジアゲハ	少	3	ヌマガエル	普
1	ノハナショウブ	稀	15	アキオサムシ	稀	4	ニホンアマガエル	普
2	カキラン	稀	16	ヤコンオサムシ	稀		魚類	
3	シライトソウ	稀	17	クロナガオサムシ	稀	1	ミナミメダカ	多
4	トキソウ	稀	18	スジアオゴミムシ	少	2	ドジョウ	普
5	モウセンゴケ	少	19	センチコガネ	少	3	カワヨシノボリ	少
	昆虫類		20	シロテンハナムグリ	少	4	ヌマムツ	少
1	ハッチョウトンボ	稀	21	ナナホシテントウ	少		貝類	
2	シオカラトンボ	普		鳥類類		1	マツカサガイ	多
3	オオシオカラトンボ	普	1	スズメ	普		甲殻類	
4	ショウジョウトンボ	少	2	カワラヒワ	普	1	アメリカザリガニ	多
5	コシアキトンボ	少	3	ホオオジロ	普			
6	ハラビロトンボ	普	4	ツバメ	普			
7	ギンヤンマ	少	5	コシアカツバメ	少			
8	シモフリスズメ	少		爬虫類類				
9	ヒョウモンエダシャク	少	1	ニホンカナヘビ	少			
10	モンキチョウ	少	2	ヤマカガシ	少			
11	モンシロチョウ	普		両生類	少			
12	ヤマトシジミ	普	1	カスミサンショウウオ	稀			
13	アゲハチョウ	普	2	トノサマガエル	普			

8．観察会の写真

8．観察会のまとめ

ワールドカップの最中で人が来てくれるか不安な気持ちで集合時刻を迎えた。しかし、二家族の子供さんが5人も参加してくれた。法西氏よりマダニの標本を見せてダニ防除方法と今日の狙いを説明。「武器をもて」の号令が掛かって出発。道々蝶や小鳥を観察しながら目的地に向かった。ちょっと飽きた子供が、おなが空いたといいだしどうなるかと思っていたら、里山に着くや否や、直ぐに田舎の子状態で、網を持ってあぜ道を歩き回る。慣れてくると熱心にザリガニやメダカを狙って思い思いの所へ行ってしまう。呼んでも帰ってこない。

目的のノハナショウブ、カキラン、マツカサガイ、カスミサンショウウオ、全部観察出来た。

おまけにハッチョウトンボ、ハラヒロトンボ、トキソウ・・・多様な希少生物が観察出来た。小さな谷で一軒の農家だけが、営々と農業を続けられ外来者の進入がなかったためだろうと思うが、ザリガニ以外の外来種の進入もなく、古くからの里山の環境が頑固に守られた貴重な空間であった。

図 1 自然観察記録